

## 令和4年12月13日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長よろしくお願いたします。

### ◆市長

今日早めに到着しましたので、今、手話通訳の皆さんとドラマ『silent』の話をしておりました。皆さん、ご覧になっていきますでしょうか。手話を通じてコミュニケーションを図ることの難しさということを訴えるドラマなのですが、素晴らしいドラマなんですね。これによって若い方々が手話に関心を持ってくださればいいな、なんていうふうに思っております。

さて、それでは、今日の市長定例記者会見の話題は、『静岡市歴史博物館いよいよグランドオープンへ』ということであります。スライドを用意してまいりましたので、合わせてご覧ください。ご承知のとおり、この歴史博物館は1980年代から昭和、平成、令和と静岡市にとっての悲願でありました。旧静岡市の荻野準平市長の時に構想されて以来、河合代悟さん、天野進吾さん、小嶋善吉さん、そして私とたすきが渡ってきたのですが、なんとかこの5代にわたる市長のリレーの中で、来月いよいよグランドオープンを迎えるということは、歴史の責任の一端を担うことができたかなと、私自身も大変安堵しております。

それでは、次のスライドをお願いいたします。市民の皆さんも待望久しかったのだらうと思います。7月23日のプレオープン以降、この数カ月間で、当初3万8千人と設定していた目標見込み数が3割増しの約5万人の皆さんに訪れていただいております。1階部分だけのオープンなんですけれどもね。これは本当にうれしい悲鳴であります。そして、この5カ月間、私どもは文化振興財団と公民連携の下で、例えば博物館に来れば何かやっているぞ、ということを実感してもらえることを目標にして、例えば学芸員さんによる分かりやすい歴史トークイベントとか、歴史にちなんだ工作体験のイベントとか、あるいは博物館をスタート地点にして周辺、駿府城公園地区の歴史を学ぶガイドツアーなど、来月グランドオープンに向けて期待感を高めていくようなイベントを連続開催してまいりました。いずれのイベントも大変好評で、リピーターの方々もいらっしゃっているという報告を受けております。

次のスライドをお願いします。そして、今月からいよいよ年をまたいで来月に向けても静岡市の歴史文化の醍醐味を楽しむことができるイベントが目白押しであります。まず今月の20日火曜日には歴史博物館の目の前、駿府城の東御門・巽櫓のライトアップが、世界的照明デザイナーの石井幹子さんのデザイン・

設計の元で劇的に生まれ変わります。そのお披露目となる点灯式を開催いたします。私、20代の頃、イギリスで生活をさせていただいて、休みのときになるとヨーロッパの都市なんかもよく旅行に行ったんですけれども、だいたい、まちの中心に歴史的な建造物があるんですね、教会建築が多いんですけれども、そこが昼の姿と夜の姿と全然、同じ場所とは思えないほど違うんですね。その夜の姿がとても幽玄で厳かで、すごく歴史を感じさせるヨーロッパのそんな経験があって、将来これを静岡市でも実現させたいな、というふうに思っておりました。これがその夜景といいますか、それが一つの呼び物になってナイトエコノミーの増進になると、回遊性を高めていくというふうにもつながっていきますのでね、これに私はとても期待をしております。そして、12月23日から25日の夜、いわゆるクリスマス期間ですね、この期間限定の特別演出を施したライトアップも実施され、これは博物館のカフェスペースから窓越しに、あるいは3階のコリドーがあります、展望ラウンジがありますが、そこからも夜景を楽しむことができ、開館時間も、この期間、延長する計画であります。若い方々にもぜひクリスマスシーズンのデートコースにうってつけでありますので、ぜひいらっしゃっていただければうれしいなというふうに思います。

次のスライドをお願いします。そして、いよいよ令和5年になって1月8日には、大河ドラマ『どうする家康』、これ初めての試みということですが、NHKさんにとって、初回放送に合わせて出陣式とパブリックビューイングが開催されます。そして、出演者が登場する出陣式には、昨日、申し込みの受付が終了しましたが、定員、グランシップ3,300人のところ、なんとその23倍の76,832人もの皆さんから応募があったと報告を受けております。早くも松潤効果が現れたな、というふうに手応えを感じているわけですが、全国からお越しいただく多くの松潤ファンといいますか、家康ファンを静岡ファンにしていきたいな、静岡市が家康公ゆかりの土地であるということを強く発信し、そして、その拠点の施設ができたんだと、歴史博物館の存在をしっかりとPRしてまいりたいというふうに思います。

そして、さらに1週間後の1月13日、いよいよグランドオープンを迎えます。記念式典開催後の14時から展示室の一般公開をスタートいたします。さて、この中身でありますけれども、先日、清水日の出地区の海洋と地球の総合ミュージアムの紹介もしましたけれども、それと匹敵するような歴史文化のすごさが分かる展示内容となっております。まず2階は75年の家康公の、生涯のおよそ3分の1を駿府の地で過ごしたという徳川家康公と、また“今川は徳川のゆりかご”なんて言い方がありますがけれども、その徳川時代の駿府のまちの礎を築いた今川氏の歴史に触れることができる展示となっております。主な展示物としては、静岡浅間神社所蔵の家康公着初めと伝わる紅系威腹巻であるとか、久能山

東照宮に大事に所蔵されてきた家康公が天下分け目の関ヶ原の戦いで着用したと伝わる甲冑、これを当時と同じ技法で忠実に再現したものを展示いたします。そして、3階は江戸時代の駿府城下町などが描かれた東海道図屏風であるとか、あるいはご高齢の方にはとても懐かしい昭和30年代の静岡のまちを再現したジオラマであるとか、近現代の静岡のまちと人の歴史をたどることのできる展示となっております。

さらに3階では、2月26日までですが、開館記念企画展『徳川家康と駿府』を開催いたします。ここには宝台院所蔵の家康公の肖像画など、普段は静岡市内の神社やお寺などが、それぞれに所蔵している家康公にまつわる品々を一堂に集め展示する企画展となっているので一見の価値あります。また、この企画展では静岡浅間神社所蔵の家康公が実際に着用されたという、先ほど申し上げました紅糸威腹巻の実物が特別に公開されます。この腹巻は、家康公が着用した当時の姿をその頃と同じであろう作り方で、職人たちが再現したものを2階の常設展示でご覧いただくことができますので、これを合わせてご覧になっていただくことによって、作られた当時の姿と合わせて比べて見るまたとない機会となっていくと期待しております。

2階3階の展示室の入場には、こちらのとおり料金がかかります。展示室の混雑緩和のため、オンラインでの日時指定予約を導入します。とりわけグランドオープン直後は混雑が予想されますので、可能な限り事前の日時指定予約をお願いします。予約のサイトは、歴史博物館のホームページ上で確認いただきたいと思います。

以上、展示に関する概要ですが、その付属施設、博物館内のミュージアムショップカフェについても紹介します。これ、ユニークベニュー、特別な場所なんだと、何度も来てもらう場所なんだという、そういう観点からこのミュージアムショップカフェにも力を入れております。市内で三つの店舗を展開する地元密着型のカフェ運営事業者である Hug Coffee に運営をお任せをすることになりました。静岡産の茶葉や抹茶を使用したドリンクとか、自家焙煎したスペシャルティコーヒーなどを提供するとともに、もちろんミュージアムショップでは博物館オリジナルのグッズも販売いたします。このクリスマス期間、23日から25日のライトアップのときには、カフェのみプレオープンをいたしますので、ドリンクを片手にライトアップの特別演出も楽しめるというサービスを計画しております。

続いて1月13日から15日にかけて開催する記念式典と記念イベントの概要も紹介します。静岡市歴史博物館は、静岡の歴史を学び今を知る、そして、未来を考える、彰往考来という展示内容のコンセプト、基本ポリシーがあります。そこで、そのはじまりの日、子どもたちにとって、さらに未来への種をまくと

いうテーマで、多くの市民の皆さんと一緒に作り上げる式典にしたいと考えております。まず13日の金曜日には午前11時から、これまで開館に向け、ご尽力をいただいたご関係の皆さんを招待して記念式典を開催いたします。市内在住の国際的なフルーティスト古川はるなさんの演奏や、県の文化財にも指定されています由比のお太鼓祭りによる祝いの太鼓披露で、華やかにグランドオープンを彩っていただきます。先ほどユニークベニューという欧米の公共政策のやり方ですね、例えば、歴史博物館であるけれども、そこに音楽があったり、さまざまなパフォーマンスがあったりという、まちは劇場の推進という、我々の5大構想でやってきたこと、コラボレーションするような、そんな式典を考えてくれました。

そして、一般の方々を対象に1月14日の土曜日から15日の日曜日にかけては、多くの催しをご用意しております。本日はその中の目玉を三つだけ、ご紹介いたします。まず一つ目は「歴博オープンだよ！すんぷ歴史の大学校！」と題したイベントです。小和田哲男先生、歴史博物館の名誉顧問にご就任いただき『どうする家康』の時代考証も務める小和田先生をお招きし、面白おかしく静岡の歴史を学んでいただけるトークショーを開催します。二つ目は「駿府ほかほか市 はじまりのマルシェ」というイベントです。これも未来への種をまくという考え方のもと、博物館の周辺に展開するマルシェで徳川家康公や今川義元公のように今後、静岡のまちで活躍していってくれるであろうニューフェイスの皆さん、これビジネスチャンスとして地域経済の活性化のためにこういう機会を提供したいと思っていますので、そういう実店舗を持ってないけれどもこういうものをこれから売りたい、という方々に出店していただこうと準備を進めております。

そして、三つ目は「戦国時代の道」の遺構展示スペースが劇場に変わるというイベントであります。これもまちは劇場の一環というか、それとの連携でありますけれども、県の指定文化財である清沢神楽と、そして、世界で活躍をしているSPAC静岡県舞台芸術センターとコラボした、上演時間は約30分ではありますが、舞台作品『小林作兵衛 今川義元討死を駿府に知らせた男』というタイトルの舞台をナイトシアターとして上演します。

以上、三つ紹介をしましたが、その他にもさまざまな催しをご用意して何回も何回も博物館に足を運んでもらえるような、そんな公益性と事業性を両立したミュージアムを目指してまいります。

さらに、歴史博物館のグランドオープンに続いて、1月27日の金曜日には静岡浅間神社の中に「どうする家康 静岡大河ドラマ館」がオープンいたします。この大河ドラマ館と歴史博物館の両館を結ぶシャトルバスの運行とか、市内の大学生が制作するまち歩きマップ、さらには家康公ゆかりの地を巡る周遊アプ

りなど歴史を切り口とした市内周遊を楽しんでいただける企画を打ち出してまいります。つまり、この両館を核にして、そこから回遊性を高めて、とにかく経済の活性化につなげていくということを基調にしております。1月下旬には、駿府城公園の中堀を周遊する葵舟も現在の2艘体制から3艘体制に増やしてまいります。歴史博物館を核にして、駿府城公園の周辺を大いに盛り上げてまいりたいと思いますので、ぜひ多くの方々のご来館をお待ちしております。なお、最新の情報はホームページ等で随時お知らせしていきますが、来年は歴史博物館、大河ドラマ館を中心に家康公が愛したまち静岡ということ、世界に発信してまいります。

先ほども申し上げましたとおり、静岡市歴史博物館は静岡の歴史を学び、今を知る、そして未来を考えるという場になることを目指しております。そして、私の3期12年の静岡市の都市目標も「世界に輝く静岡の実現」、世界に輝く静岡になるためには、もう1ランクアップした国際都市になるための第一条件は静岡らしさを追求すること、ここに来なければ見られないもの、経験できないものをプロデュースすることによって世界中から人が集まる、これがコンセプトでありますので、静岡市の未来を築いていく礎に、この拠点施設、年代の方々のご尽力をいただいた博物館がなっていくんだという思いを持って、バトンを受けた現在の市の職員、あるいは文化財団の職員たちが一生懸命準備を進めておりますので、ぜひ報道機関の記者の皆さんにもご協力、ご支援をお願いしたいし、市民の皆さんにも訪れていただきたいと、重ねてお願いいたします。私からは以上です。

#### ◆司会

それではただ今の発表につきまして、皆様からのご質問を、まずはお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

#### ◆NHK

NHKです。これは局長からの回答でも結構ですが、3階の都市型模型について、今、市長のご説明、昭和30年代というお話でした。静岡市がこの模型を作るために、市民から写真を募ったときは、昭和36年と年を指定して募集したと思いますが、これは制作段階で趣旨を変えたということでしょうか。

#### ◆歴史文化課長

歴史文化課長の花村です。都市模型の募集の関係というふうでよろしいでしょうか。都市模型につきましては昭和36年の航空写真ですとか、そういった資料が残っておりましたので、それを基に募集をして、当時、その近辺の写真です

とか、資料を市民の皆さんから募集して作らせていただいたものです。

◆NHK

その完成した模型は昭和36年をイメージしたものなのか、昭和30年代をイメージしたものなのか、どちらですか。

◆歴史文化課長

写真をいただいたのは必ずしも昭和36年ということではなくて、その近辺のものであるので、概ね30年代というようなイメージでよろしいかと思います。

◆NHK

このお話については、市長の生まれ年に合わせて模型を作ろうとしているのではないかという疑念が生じたわけですが、それを理由に昭和36年というのをやめたというわけではないですか。

◆市長

ありません。

◆NHK

今、課長が何かご説明しようと言われてましたが、それを伺っていいですか。

◆歴史文化課長

市長がおっしゃられたとおりです。

◆NHK

分かりました。あと展示品の例に挙げられているお万の方の肖像は、これは静岡らしさとは。龍華寺が清水区にあるからっていう、そういう理由でしょうか。

◆歴史文化課長

歴史文化課長の花村です。すみません、そちらのほう、一つは今おっしゃったような龍華寺が持っているということです。すみません、詳細について、関わりについては、ここで詳細が分かりませんので、必要であればもう一度回答させていただきます。

◆NHK

いずれにしろ全ての展示、静岡らしさ駿府らしさにこだわったものだという

ことで公金を使われてるということによろしいんですね。

◆歴史文化課長

はい、静岡にあるものを集めて、そこで皆さんに見ていただくというようなことになります。

◆NHK

それは静岡にあれば別に駿府、駿河の国に直接の関わりなくとも取りあえず展示してしまうということですか。

◆歴史文化課長

すみません、詳細は全部の資料のことは分かってはおらないんですけれども、「徳川家康公と駿府」という題名になりますので、それに関わるような資料をここで展示させていただくということになります。

◆NHK

分かりました。また後ほど、うかがいます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。静岡新聞さんよろしく願いいたします。

◆静岡新聞

幹事社静岡新聞です。質問2点です。まず1点目、来年4月の市長選に出馬しないと表明してから10日程度が経過しました。改めて、現在の心境と周囲からどのような反応があったか、お聞かせください。また、市長選では特定の候補を支援する考えはあるか、また、市長退任後に政治活動を継続する意思があるかどうかもお聞かせください。

◆市長

まず心境ですけれども、残された4カ月の任期、短いので一日一日を大切にきちっとやるべきことをやっていく、そんな思いでいっぱいあります。しっかり3次総を仕上げて、そして4次総につないでいく、という作業に専心したいなというふうに思っています。

それから周囲からの反応ですが、それはさまざまです。「よく決断した」とおっしゃる方もいらっしゃるれば、「出馬するべきだ」とおっしゃる方もおります。

しかしながら、「本人が決めたことだからそれを尊重する」というふうにおっしゃっていただいて、私とすると3期12年の長きにわたり政令指定都市の市長を務めさせていただいたという感謝の思いを、支援していただいた方、周りの方々に伝えているところであります。

それから特定の支援者、まだ市長選の構図どうなるか分かりませんので、これは軽々に申し上げられません。これまでお話したとおり、やはり4次総、来年度から8年間であり、SDGsの周期とも重なる、こういったとても私にとって大切な行政計画を、目下議会に上程しております。これを可決いただいたら、この4次総の基本路線、基本ドクトリンを継承してくださる方に就任していただきたいし、また何よりも安定した市政運営を期待できる方をお願いをしたいという気持ちであります。以上です。

#### ◆静岡新聞

もう一点、市長ご自身の退任後の政治活動を継続する意思があるかというところを。

#### ◆市長

全く白紙です。まずは任期いっぱい全力投球します。

#### ◆静岡新聞

2点目ですみません。卓球のTリーグに静岡市の中山間地を拠点とするオクシズUUの新規入会が承認されました。受け止めや期待をお聞かせください。また行政支援に関する検討状況や具体的な内容があれば教えてください。さらに、プロ野球の関係で、過日、ハヤテさんがホームページ上で、静岡を本拠地に2024年春のプロ野球参入を目指す、と正式に表明されました。合わせて受け止めをお聞かせください。

#### ◆市長

卓球と野球、二つのトップチームが静岡市を本拠地にしてやりたいという朗報が届きました。歓迎したいと思います。4次総でも、まちは劇場という文化芸術施策のみならず、スポーツ施策を加味した、そういう5大重点政策を設定しております。それは、やはりオリパラを経験して、あるいは、明日未明、クロアチアアルゼンチン戦ですよね、ワールドカップサッカーを経験して、スポーツの持つ力の素晴らしさというのを私、新体験をしました。やっぱりスポーツというのは、ものすごい、ワールドカップだったら日本の国民の心を一つにするし、静岡だったら静岡市民の心を一つにするという効果がありますし、また、たく



さんの方々を会場に集めますので、地域経済の活性化、MICEの推進ということにも効果がある、そういった意味でスポーツの力を生かしたまちづくりというのを、4次総の重点目標にしています。また、中学の部活動改革を、現在、教育委員会と一緒にやっておりますけれども、子どもたちにも、おらがまちにトップチームがあると、あこがれの選手がいるということは、たいへん夢や目標を持つ上でも大事なことであります。そういった点で、このようなスポーツ施策の一環としてトップチーム、プロチーム、エスパルスのサッカー、ベルテックスのバスケット、シャンソンもありますね、ラグビーのブルーレヴズ、そして卓球、野球と主要スポーツがみんなトップチーム持っている、そういう都市というのは少ないと思います。それは静岡の、この温暖な自然環境の中で、スポーツをするにも、見るにも、支えるにもふさわしい環境だということにも、うってつけのプロモーションにもなっていくというふうに思いますので、その下支えはしていきたいというふうに思います。

なお、卓球は子どもからご高齢の方まで楽しむことができるスポーツであることから、チームが子どもたちの健全育成や高齢者の健康増進、あるいは狭いスペースでもできますので、中山間地域でも支援ができます。オクシズの愛称も、中山間地域の振興などにも地域に密着した事業に積極的に取り組んでいただくことによって、市民の心の公共財になっていくことを期待しております。静岡の支援としては他のホームタウンチームと同様に、この卓球チーム、なんていう名前になるか、なんとか静岡という名前がつくことも大歓迎でありますけれども、このチームと連携してスポーツの力を生かしたまちづくり、人づくりに取り組んでまいります。スポーツの振興はもちろん、森林文化の地域づくりというのを、また新しく4次総の5大重点政策に挙げておりますので、その一環としても中山間地域の発展のコンテンツとして、このチームを活用させていただきたいと思っておりますし、また企業版ふるさと納税も活用しながら下支えもしてまいりたいというふうに思っております。

一方、プロ野球は昨日の発表ということではありますが、ハヤテグループがNPBのファームリーグ拡大構想における来年春の公募に向けて、静岡市をホームとして正式に参加したいという意向を表明されました。また、静岡市にも、その旨の連絡をいただいております。これ私にとっても40代のときから、市長になるずっと前からの夢だったんですね。政令指定都市になったら変わったという具体的な何かが欲しかったんですね。横浜にはマリノスがあってベイスターズがあるじゃないか、名古屋にはグランパスがあってドラゴンズがあるじゃないか。もともと野球熱が強い土地柄ですから、サッカーのエスパルスがあり野球のプロ球団が静岡にあってもいいじゃないか、これは政令市になったからできることなんだということを、ずっと夢で追ってきて、二宮清純さんと

勉強会を始めたりして、この12年前の市長選の最初のときの公約としても掲げましたので、この夢を12年間追ってきました。観光交流文化局の職員には本当に一緒に、ここまで仕事をしてきました。それが、いよいよ来年公募ということにトライしてくださる企業ができたということは、たいへん私にとって感慨深いです。ですから、このハヤテさんからのお話を受けて、イースタンリーグということになるんでしょうけれども、この参加が実現できますように、清水庵原球場の本拠地化について、今後どんなことが受け皿づくりとしてできるのか、積極的に検討を進めてまいります。今後、ハヤテさんが庵原球場周辺の地元住民の皆さん、あるいは球場の利用者の皆さん、ご関係の方々と意見交換を実施していく予定であると伺っておりますので、それが円滑にできるように、その実施のコーディネーター役というか、下支えもしてまいりたいというふうに思います。以上です。

#### ◆司会

それでは、まずはこの幹事社質問に関連した質問を皆様からお受けしたいと思います。読売新聞さん、お願いいたします。

#### ◆読売新聞

読売新聞社です。先の定例会の代表質問に答える形の答弁、そして、その後の囲みの取材で市長の不出馬の理由として、災害対応を巡る責任を感じたことも一つ挙げられておりました。とりわけ清水区の断水について初動対応、自衛隊の派遣要請等の初動対応について、市だけではなく、県も批判されていると感じておりますが、市長は市だけでなく県にも、そのトップである知事にも、ある程度責任はあるというふうにお考えでしょうか。

#### ◆市長

それは知事が考えることではないでしょうか。私は責任を強く感じております。ただ今回の決断はそれだけではありません。むしろ先ほど申し上げたとおり歴史博物館がオープンした、3次総で登載した事業の中で、コロナ禍で立ち往生したやつの、例えば海洋文化施設も事業者が決まった、あるいはプロ野球も、こういう形で山場を超えた、こういうことで3次総、一定のめどがついたということが、一つ大きな今回の決断につながっているということでもあります。

#### ◆読売新聞

すみません、もう一つ、ついでにお伺いします。卓球の件なんですけども、オクシズUUさんは、オクシズ地域の今は使われてない公共施設を使わせていただ

くように、市と話をしているということなんですけど、具体的に、どの地区の  
どういう施設かというのを、この場で明らかにされることは可能でしょうか。

◆市長

これからの議論ですけれども、今回、これについてけん引役を担ってくれたのは  
前田葵区長でありますけれども、今日は私呼びかけておりますけれども、いらっ  
しゃっていますか。来てない。じゃ広報課長、ちょっと、そのあたり、昨年、  
葵区の地域総務課長をやられていますのでいかがでしょうか。ちょっと待つて  
くださいね。昨日、有東木トンネルの起工式に行ってきたんですけど、梅ヶ島  
地区と大河内地区、すごく、このオクシズ卓球に対しての期待感強かったですね。

◆広報課長

すみません、広報課長の浪越ですけれども、昨年、葵区地域総務課で、この葵区  
の活動のことで携わっていたんですけども、一応、今、具体的には、まだ、  
どこの施設というのが決まっていますので、こちらについてはチームのほう  
の要望も踏まえまして、今後、使われてない公共施設の中から利用できるところ  
を関係各課で協議を、今、進めていくということで、具体的な場所までは、まだ  
決まっていない状況です。

◆読売新聞

分かりました。

◆司会

その他、幹事社質問関連のご質問はいかがでしょう。NHKさん、お願いいた  
します。

◆NHK

NHKです。これもご担当に聞いたほうがいいかもしれませんが、プロ野球チー  
ムについて、市民の間ではどうして草薙球場じゃなくて庵原球場なんだろうと、  
交通アクセスの観点から疑問持たれてる方も多いようですけど、これ、何か、  
市から説明できることありましたら、お願いします。

◆観光交流文化局長

観光交流文化局長の望月です、よろしく申し上げます。なぜ庵原かということ  
ですけれども、静岡市、このプロ野球については地元球団創設ということで、  
いろんな野球のイベントといいますか、を盛り上げて、野球熱をとにかく盛り

上げようということでやってきたことがいろんな皆さんに伝わって、静岡市、野球のことを一生懸命やっているんだなということが、いろんなところで知られていったというところ。それから球場については、ハヤテさんが草薙ではなく庵原というところでは、静岡市のまず持ち物であるということ、それから庵原球場アクセスも東名、それから、いはらインターというところもあって、アクセスもいいところというところで選んでいただけたのかということで、我々は理解しております。以上です。

◆NHK

特に市から、草薙は県の持ち物でちょっと窓口変わってくるので、庵原球場をお勧めしますって、おっしゃったわけではないですかね。

◆観光交流文化局長

はい、先方の意向で、ということです。

◆NHK

分かりました、ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

すみません、関連でプロ野球の関係なんですけれども、先日、知事の定例会見で、知事はこのプロ野球構想には大賛成だ、歓迎だと、できれば県もできる限り支援するってということで県営球場、草薙球場指すと思うんですけれども、それを使うこともいいっていうお話があったんですが、それについては市長、どうお考えでしょうか。

◆市長

歓迎したいと思います。今まで静岡市が、局長おっしゃったようにトライアウトとか、さまざまな野球振興イベントをしたことに注目してくれて、静岡市を今回、本拠地にしたいんだということで庵原球場であります。また旧清水市のときに、あそこにスポーツタウン構想という計画があったんですね。ナショナルトレセンとか、庵原球場が整備されたという経緯もありますし、あそこは第一次産業も盛んな土地なので、そういう周辺の地域経済の活性化にもつながるということで、win-win の関係ができるということで、我々は歓迎して、庵原球場を

整備しているわけですがけれども、しかしながら、草薙球場は沢村タダシ(注：栄治)とベーブ・ルースが対決した伝説的な球場ですので、その興行の一環として草薙球場も、ぜひ貸していただければ、たいへんハヤテさんとしてありがたいんじゃないかなと、そんなふうに思っております。

◆静岡新聞

具体的に県のほうとそういった検討、協議に入る予定はありますでしょうか。

◆市長

今のところ市が主体的にやっております。まずは市とハヤテとの信頼関係というものが基本であります。

◆司会

その他いかがでしょうか、幹事社関連、朝日テレビさん、お願いいたします。

◆朝日テレビ

朝日テレビです、よろしくお願いします。市長選関連で1点お聞きしたいんですけども、市長はこれまで出馬に意欲はあると言いつけてこられていたんですけども、最終的に出馬という判断に至らなかった理由について、改めて、なぜ出馬に至らなかったのか、教えてください。

◆市長

まずは3期12年、3次総をけん引してきて成果が出てきたと、一定のめどがついたということでもあります。もちろん災害対応の責任も感じている。さまざまな理由で、そして、ずっと私を長年支援してきた方々にも相談して、最後は自分自身で決断したということです。ずいぶん、古典とも対話をしました。先人の方々が残してくれた言葉、なるほどなと思ったんですけども、やっぱり出処進退というのは、進むより引くときのほうが難しいですね。

◆朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他よろしいでしょうか。では、その他のご質問を、あればお受けをしたいと思えます、いかがでしょうか。その他のご質問よろしいですか。

では、本日の会見はここまでとさせていただきます。次回、年内最後の会見の

予定ですが、12月23日金曜日、午前11時からとなります。本日は  
ありがとうございました。